

- 技術協力
- 軍の債・人間の安全保障 無償資金協力
- 無償資金協力
- 有償資金協力 (円借款)

Major Project 1

バンコクの空港

タイ空港公社



新バンコク国際空港 (スワンナブーム空港)



ドンムアン国際空港



2006年9月、バンコクの東方約30kmにスワンナブーム新バンコク国際空港が開港しました。本新空港建設のうち、円借款において、滑走路2本(東側:3,700m×60m、西側:4,000m×60m)、旅客ターミナルビル(年間旅客収容能力4,500万人)、貨物ターミナルビル(年間貨物収容能力212万トン)などの建設が行われています。

新空港開港までバンコクの空の玄関口であったドンムアン空港の建設に対しても円借款が供与されています。具体的には、1979年から1982年にかけて、滑走路1本、誘導路9本、駐機場拡張(23から47ハース)、国際線ターミナル新設・拡張、貨物ターミナル2棟新設、関連施設やシステムの整備等、さまざまな空港施設への資金協力が行われています。

Major Project 2

チャオプラヤ川の橋梁群

運輸省道路局 タイ高速道路交通公社(ラマ9世橋のみ)



ハトムタニ橋



橋の長さ:239m 開通:1984年9月20日

チャオプラヤ川に架かる橋梁17橋のうち、円借款により建設されたものは13橋に及びます。またこれらの橋に接続して東西南北に伸びる道路、バンコク近郊県と首都圏を結ぶ外環状道路にも円借款が供与され、バンコクの交通渋滞緩和に貢献しています。

ラマ5世橋



橋の長さ:320m 開通:2002年6月21日

ブラ・ピンクラオ橋



橋の長さ:320m 開通:1973年9月24日

ブラ・ボックラオ橋



橋の長さ:272m 開通:1984年12月3日

バックレット(ラマ4世)橋



橋の長さ:926m 開通:2000年

ブラ・ナンクラオ橋



橋の長さ:3291m 開通:1985年7月22日

ラマ7世橋



橋の長さ:1200m 開通:1992年9月3日

メモリアル橋



橋の長さ:17034m 開通:1983年11月19日

クルンテープ橋



橋の長さ:50m 開通:2003年10月29日

ラマ9世橋



橋の長さ:731m 開通:1972年

ブラ・チャオ・タクシン橋



橋の長さ:224m 開通:1982年5月6日

産業環状道路橋



橋の長さ:332m 開通:2003年 橋の長さ:370m 開通:2003年



ハトム・チャルニワレントさん 運輸省地方道路局バックレット橋プロジェクトディレクター

チャオプラヤ川には日本の援助により多くの橋が建設されています。私の父も橋梁建設のエンジニアとして日本の援助でできた橋の建設を担当していました。そのため、私も子供の頃に橋が建設される様子を見る機会が多く、橋が交通渋滞を緩和し人々の生活を便利にすることを見て育ったため、自分も人々の生活に役立つ橋を作りたくて橋梁建設のエンジニアになりました。

JBICは数十年の間、タイの社会経済の発展に貢献してきました。チャオプラヤ川橋梁群に代表される資金協力を通じて、タイの人々はより高い生活水準を享受するようになりました。私はJBICの一員であることに誇りを感じています。



ワンチャイ・ロクガモンウォンさん JBICバンコク駐在員事務所 アシスタント・プロジェクト・オフィサー

Major Project 3

東部臨海開発

タイ国有鉄道・タイ工業団地公社・タイ港湾公社・運輸省道路局 農業協同組合省立灌漑局・運輸省地方道路局・タイ石油株式会社・タイ肥料公社



チャチュンサオ、チョンブリ、ラヨンの3つの県にまたがる「東部臨海地域」は、産業基盤の整備を目的としてタイ政府により80-90年代にかけて開発が進められましたが、その中で日本は円借款や技術協力によりさまざまな協力を実施してきました(P7参照)。この結果、東部臨海地域はバンコクに次ぐタイの第2の産業地帯となり、東部臨海地域の一人あたりのGDPは、1981年の約35,000バーツ(全国平均約20,000バーツ)から、2005年の約250,000バーツ(全国平均約110,000バーツ)へと大きく増加しました。特にマブタブット地区とレムチャバン地区の発展は目覚しく、マブタブット地区

では天然ガスを利用した石油化学産業がタイ唯一の石油化学基盤として発展し、レムチャバン地区では自動車・電気機械工業が集まり東部地域の工業拠点として大きな成長を遂げています。また、この地域では2005年までに56万4千人の雇用が創出されています。こうした東部臨海地域の開発は、タイ政府の開発の方針のもとに日本の技術協力と円借款が有機的に連携しタイの地域開発に貢献した成功例とも言われています。

この日本の援助により開始されたレムチャバン港は近年ではタイ最大の貿易港となりました。現在もお成長を続ける港での仕事にはとても魅力を感じています。



レイエンチャイ・マティエントンさん タイ港湾公社 レムチャバン港研究開発課 主任

Major Project 4

地下鉄チャラームラチャモンコン線

タイ高速交通公社



2004年7月に開通したタイ初の地下鉄「チャラームラチャモンコン線」建設に対し、円借款(累計約2200億円)の支援により、トンネル建設、車両基地、レール軌道、駅構内施設等の土木工事が実施された他、技術協力により専門家が派遣されています。本地下鉄は、バンコクの交通混雑の改善に大いに役立つことが期待されています。



技術協力 軍の根・人間の安全保障 無償資金協力 有償資金協力 (円借款)

Major Project 5

モンクット王ラカバン工科大学 (KMITL) への40年の協力

KMITL に対する日本の協力の歴史は、1961年のノンタブリー電気通信訓練センターの設立に遡ります。その後約40年以上に亘り、2回の無償資金協力、4回の技術協力プロジェクト等のさまざまな協力が実施され、KMITLの発展を支えてきました。このうち最近の例としては、1997年から5年をかけてICT分野の研究活動の一層の高度化を達成した情報通信技術研究センター (ReCCIT) プロジェクトがあります。



これらの協力の結果、当初23名の受講生で始まったKMITLは、現在では工科系7学部の他に大学院やReCCITなどを有し、学生数約2万2,000人、教育数約1,000人を擁するタイを代表する工学系総合大学の一つにまで成長し、日タイ技術協力のシンボルとも言われています。その過程で、実証・実習を重視した教育・研究方式の導入やタイにおける最初の工学系博士課程の設置などにより、タイの工学系大学教育をリードし大きな影響を与えてきました。また、このような協力の経験を生かし、現在では、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムなどからの学生の受け入れも行っていきます。



佐藤栄作首相訪問(1967年9月)

Major Project 6

放送大学の活動支援

タイ政府は、ラジオ・テレビを通じて高等教育を行うことを目的として、1978年にスコタイ・タマチャラート放送大学を創設しました。同大学に対し、1980年代に、放送に必要なテレビ、ラジオスタジオの建設やテレビ番組制作用機材にかかる無償資金協力を2度にわたり実施しています。



スコタイ・タマチャラート放送大学

Major Project 7

技術研修員の受入

研修員受入事業は、1954年から開始された最初のODAであり、「人」を通じた技術協力の中でも最も基本的な形態の一つです。国づくりの担い手となる研修員を約2週間～1年間ほど日本や他の開発途上国で受け入れ、行政、農林水産、鉱工業、エネルギー、保健・医療等、様々な分野で専門的知識、技術の移転を行うことにより人材育成支援を行っています。これまで、27,000人を超えるタイの人々が、技術研修のために日本を訪れています(2007年3月末現在)。日本での研修は、JICAの国際センターを拠点として、関係省庁、地方自治体、民間企業、NGO等の協力・連携により行われています。また、滞在する間に日本の文化等にも触れ、相互理解・親善にも寄与しています。

なお、将来の国づくりを担う青年を日本に招へいし、各専門分野の研修や日本の青年との交流を通じた「人づくり」を目的に行われてきた青年招へい事業は1984年に開始されましたが、2007年からは技術研修の一端として位置づけられ、「青年研修事業」となっています。これらの参加者は日本での経験を活かしさまざまな分野で活躍しています。また、それぞれが「同窓会」を結成しており、会員同士の親睦を深めたり、ボランティア活動などを行っています。

私は2006年に環境関連の研修コースに参加しましたが、研修受入先やJICA国内機関などの方々の行き届いた準備や優しい気遣いがとても印象的でした。研修に参加してたくさんの方のアドバイスをもらって、研修先で学んだことを活かして帰国後にも活躍したいと考えています。研修先で学んだことを活かして帰国後にも活躍したいと考えています。研修先で学んだことを活かして帰国後にも活躍したいと考えています。



ウイリニー・ワッタナさん

Major Project 8

「産業村」と一村一品：地域産業振興への支援

工業省産業振興局



タイ観光公社、工業省産業振興局の協力により選ばれたタイの20の村では、円借款の支援により、1998年から「産業村」として村の手工芸品の生産と観光事業促進のための活動が行われています。これらの手工芸品のほとんどはタイの One Tambon One Product : OTOP (一村一品運動) に選定されています。村人は手工芸品を作り収入の向上につなげると同時に技術向上のための職業研修にも参加しています。円借款は物品の展示販売センターやレストランの建設などをサポート、そして日本の「道の駅」に係る専門家を呼び村への訪問やワークショップを通して活動へのアドバイスを行うなど、協力が継続しています。



私の経験がタイの人々にも役立てばと思っています。自分のアイデアで作出した製品が売れた時は大変うれしく、この楽しさをタイの人々にも伝えられればと思います。



野田文子さん
愛媛県内子町内子フレッシュパークからり
特産品振興所 運営協議会会長

このプロジェクトは村人の収入向上をはかり、生活全体の手助けをしています。私はセンター長としてこの仕事にやりがいを感じ、今後もより多くの人々を助けることができればと思っています。



サムナオ・エカサーンさん
カンチャナブリ県タムアン郡ノン・カオ行政区ノン・カオ村
産業村センター長

Major Project 9

観光振興による地域開発支援

タイ観光庁

本事業は、観光産業の振興を目的に、1998年より円借款を通じて観光施設や船着場などの観光基盤の整備や国立公園などの環境保全を行ったもので、その中には観光産業の人材育成プロジェクトも含まれています。本事業による代表的な施設として、世界遺産にも指定されているバーン・チアンの国立博物館、タイ北部チェンマイ県ドイトウンにあるメーファルアン公園のシーナカリン王母殿下の記念館などがあります。



Major Project 10

国立科学博物館に対する視聴覚・実験機材の供与

国立科学博物館

タイにおける科学技術教育の促進を目的として、2004年、国立科学博物館に視聴覚・実験機材が供与されています。視聴覚機材は、同博物館における教員研修をはじめとして各種の教育機会に利用されています。実験機材は、タイの多くの学生や一般人に実験の機会を提供しています。

